

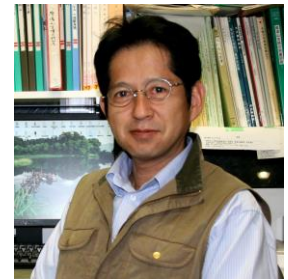
【講演会詳細】

「百舌鳥古墳群の埋葬者は誰か！」

岸本直文

大阪市立大学 文学研究科 准教授

(時間 18:00～18:55)



堺市の百舌鳥古墳群(※2)には、大仙古墳など5世紀代の倭国王墓である巨大古墳3基が含まれます。大仙古墳には仁徳天皇が・・・、いえ違います。ほんとのところ、誰が埋葬されているのかを考えてみることにします。

「星くずから地球へ」

小久保英一郎

国立天文台 理論研究部 教授

(時間 19:00～19:55)



地球はどのようにして誕生したのでしょうか。太陽系の惑星は、約46億年前に原始太陽系円盤(※3)と呼ばれる太陽の周りのチリとガスでできた円盤から誕生したと考えられます。チリから地球へ、スーパーコンピュータが明らかにしつつある形成過程を紹介します。

用語解説

※1 Mitaka :

国立天文台4次元デジタル宇宙プロジェクトで開発している、天文学の様々な観測データや理論的モデルを見るためのソフトウェア。地球から宇宙の大規模構造までを自由に移動して、宇宙の様々な構造や天体の位置を見ることが可能。

<参照>国立天文台4次元デジタル宇宙プロジェクト ホームページ: <http://4d2u.nao.ac.jp>

※2 百舌鳥古墳群 :

堺市の百舌鳥古墳群は、藤井寺市・羽曳野市にまたがる古市古墳群とともに、5世紀の頃に倭国の政権が河内に置かれていた時代に築かれた大古墳群。3基の倭国王墓をはじめ、約100基の古墳からなっており、現在、約50基が残されている。大阪湾に面する堺には国家的な港があったと考えられ、西方から船で近づく外国使節や西日本の人々を意識して、港を見下ろす百舌鳥の台地に王墓を築造したと思われる。

※3 原始太陽系円盤 :

宇宙空間を漂うガス雲が集まり太陽が形成された際に原始の太陽を巨大なガス円盤が取り巻いていたとされている。この巨大なガス円盤は”原始太陽系円盤”と呼ばれ、地球など太陽系惑星を生んだ母体であると思われる。現在の太陽系では原始太陽系円盤はすでに失われているが、太陽系外の星の観測や太陽系形成の研究から、原始太陽系円盤は、回転運動により支えられた円盤で、ガスと(砂粒のような)塵で出来ており、現在の太陽系惑星圏(地球と太陽の距離のおよそ50倍程度)の何倍もの半径を持っていたと思われる。地球、木星、天王星などの多様な太陽系の惑星たちは、この原始太陽系円盤の中で数百万年～数千万年の時間をかけ塵が合体成長したりガスが重力により引き寄せられるなどの複雑な物理過程を経て形成されたと思われる。しかし、それらの形成過程にはいまだに残された謎が多く、現在も精力的な研究が追行われている。